

実地研修指導者評価票：喀痰吸引 **口腔内** 鼻腔内吸引（通常手順）

評価判定基準	ア	1人で実施し、手続きの手順どおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見逃せないレベル）
	エ	1人で実施を任せられるレベルにはない

受講番号	
受講者名	
指導看護師名	

		回数	記入例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	
		月日	8月10日						
		時間	14:00						
		ケア実施対象者							
実施手順	評価項目		評価						
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア						
	2	手洗いをを行う	ア						
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア						
	4	必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア						
実施	5	利用者に吸引の説明をする	ア						
	6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア						
	7	口腔内・鼻腔内を観察する	ア						
	8	手袋の着用またはセッシを持つ	ア						
	吸引の実施	9	吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
		10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
		11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
		12	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
		13	吸引チューブの先端の水をよく切る	ア					
		14	利用者に吸引開始について声かけをする	ア					
		15	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
		16	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
		17	吸引チューブを静かに抜く	ア					
		18	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア						
	20	吸引器の電源を切る	ア						
	21	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア						
	22	手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	ア						
	23	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア						
	24	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア						
	25	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア						
	26	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア						
	27	手洗いをする	ア						
	報告	28	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア					
29		吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	イ						
30		ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア						
片付け	31	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	イ						
	32	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア						
記録	33	ケア実施の証明および今後のケアプランに活用できるように記録しておく	ア						
アの個数 計			31						
※ 指導内容を具体的に記述してください									
手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述									

※ 実地研修協力者は、利用者と表記しています。

実地研修指導者評価票：喀痰吸引 口腔内 **鼻腔内吸引**（通常手順）

評価判定基準	ア	1人で実施し、手続きの手順どおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見逃せないレベル）
	エ	1人で実施を任せられるレベルにはない

受講番号	
受講者名	
指導看護師名	

回数		記入例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	
月日		8月10日						
時間		14:00						
ケア実施対象者								
実施手順	評価項目	評価						
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ア						
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア						
	4 必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア						
実施	5 利用者に吸引の説明をする	ア						
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア						
	7 口腔内・鼻腔内を観察する	ア						
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア						
	吸引の実施	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
		10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
		11 (浸漬法の場合) 吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
		12 吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
		13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア					
		14 利用者に吸引開始について声かけをする	ア					
		15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
		16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
		17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
		18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア						
	20 吸引器の電源を切る	ア						
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア						
	22 手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	ア						
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア						
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア						
	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア						
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア						
	27 手洗いをする	ア						
	報告	28 吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア					
		29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	イ					
		30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア					
	片付け	31 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	イ					
32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する		ア						
記録	33 ケア実施の証明および今後のケアプランに活用できるように記録しておく	ア						
アの個数 計		31						
※ 指導内容を具体的に記述してください 手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述								

※ 実地研修協力者は、利用者と表記しています。

評価判定基準	ア	1人で実施し、手続きの手順どおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見逃せないレベル）
	エ	1人で実施を任せられるレベルにはない

受講番号	
受講者名	
指導看護師名	

回数	記入例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	8月10日					
時間	14:00					
ケア実施対象者						

実施手順	評価項目	評価	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目		
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア							
	2 手洗いをを行う	ア							
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア							
	4 必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア							
実施	5 実地研修協力者に吸引の説明をする	イ							
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	イ							
	7 気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する	ア							
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア							
	吸引	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア						
		10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア						
		11 (浸漬法の場合) 吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア						
		12 吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア						
		13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア						
		実績	14 実地研修協力者に吸引開始について声かけをする	ア					
			15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
			16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
			17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
			18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19 滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす		ア						
	20 吸引器の電源を切る		ア						
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	ア							
	22 手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシに戻す	ア							
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア							
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア							
	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア							
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア							
	27 手洗いをする	ア							
	報告	28 吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア						
		29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	イ						
		30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア						
	片付け	31 吸引びんの排液量が70%~80%になる前に排液を捨てる	ア						
32 使用物品を速やかに後片づけまたは交換する		ア							
記録	33 実施記録を記載する	ア							
アの個数 計		30							
※ 具体的な内容を記述してください 手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述									

※実地研修協力者は、利用者と表記しています。

※気管カニューレ内部の吸引については、無菌的に操作することが必要であり、吸引チューブを再利用せず一回ごとに未開封の吸引チューブを使用することが望ましい。そのため、上記「吸引チューブを連結管

実地研修指導者評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下型）

評価判定基準	ア	1人で実施し、手続きの手順どおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見逃せないレベル）
	エ	1人で実施を任せられるレベルにはない

受講番号	
受講者名	
指導看護師名	

回数		記入例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目	
月日		8月10日						
時間		14:00						
ケア実施対象者								
実施手順	評価項目		評価					
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア					
	2	手洗いをを行う	ア					
	3	必要な物品を準備する	ア					
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・温度・時間を確認する	ア					
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア					
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	イ					
実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実地について説明する	ア					
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものかどうかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア					
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア					
	経管栄養者の実施	10	注入を開始し、注入直後の状態を観察する	ア				
		11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
		12	注入中の利用者の体位を観察する	ア				
		13	注入物の滴下の状態を観察する	ア				
		14	挿入部からの栄養剤（流動食）の漏れを確認する	ア				
		15	注入中の実地研修協力者の状態（気分不快、腹部膨満感、おう気・おう吐、腹痛、呼吸困難等）を観察する	ア				
		16	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア				
		17	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア				
報告	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア					
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア					
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア					
片付け	22	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア					
記録	23	実施記録を記載する	ア					
アの個数 計		21						
※ 指導内容を具体的に記述してください								
手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述								

※ 実地研修協力者は、利用者として表記しています。

実地研修指導者評価票：半固形化栄養剤による胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）

評価判定基準	ア	1人で実施し、手続きの手順どおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見逃せないレベル）
	エ	1人で実施を任せられるレベルにはない

受講番号	
受講者名	
指導看護師名	

回数	記入例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	8月10日					
時間	14:00					
ケア実施対象者						

実施手順	評価項目	評価					
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いをを行う	ア					
	3 必要な物品を準備する	ア					
	4 指示された栄養剤（半固形化栄養剤）の種類・量・温度・時間を確認する	ア					
	5 半固形化栄養剤の注入準備を行う	ア					
	6 準備した半固形化栄養剤を実地研修協力者のもとに運ぶ	イ					
実施	7 実地研修協力者に本人確認を行い、半固形化栄養剤の経管栄養の実施について説明を行う	ア					
	8 注入する半固形化栄養剤が実地研修協力者本人のものかどうかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア					
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア					
	10 注入を開始し、注入直後の状態を観察する	ア					
	11 注入中の表情や状態の変化を観察する	ア					
	12 挿入部からの栄養剤（半固形化栄養剤）の漏れを観察する	ア					
	13 注入中の実地研修協力者の状態（気分不快、腹部膨満感、おう気・おう吐等）を観察する	ア					
	14 挿入部からの栄養剤（半固形化栄養剤）のものを確認する。	ア					
	15 注入中の実地研修協力者の状態を観察する	ア					
	16 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
	17 経管栄養チューブの接続を外し半坐位の状態を保つ	ア					
報告	18 利用者の状態を食後しばらく観察して、看護職員に報告する	ア					
	19 体位変換が必要な利用者に対しては、異常がなければ体位変換を再開する	ア					
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア					
片付け	21 環境汚染されないよう使用物品を速やかに後片付けする	ア					
記録	22 ケアの実施の証明および今後のケアプランに活用できるように記録する	ア					
アの個数 計		21					

※ 具体的な内容を記述してください

手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述

※ 実地研修協力者は、利用者と表記しています。

実地研修指導者評価票：経鼻経管栄養

評価判定基準	ア	1人で実施し、手続きの手順どおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導した
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導した（その場では見逃せないレベル）
	エ	1人で実施を任せられるレベルにはない

受講番号	
受講者名	
指導看護師名	

回数	記入例	()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
月日	8月10日					
時間	14:00					
ケア実施対象者						

実施手順	評価項目	評価	評価					
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア						
	2 手洗いをを行う	ア						
	3 必要な物品を準備する	ア						
	4 指示された栄養剤（流動食）の種類・量・温度・時間を確認する	ア						
	5 経管栄養の注入準備を行う	ア						
	6 準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア						
実施	7 実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア						
	8 注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものかどうかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア						
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア						
	経管栄養者の観察	10 注入を開始し、注入直後の状態を観察する	ア					
		11 注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア					
		12 注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア					
		13 注入物の滴下の状態を観察する	ア					
		14 注入中の実地研修協力者の状態（気分不快、腹部膨満感、おう気・おう吐、腹痛、呼吸困難・むせ込み、顔色・表情の変化、苦悶表情の出現等）を観察する	ア					
		15 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア					
		16 フレンスを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、干坐位の状態を休ませる	ア					
報告		17 注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア					
	18 体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位交換を再開する	ア						
	19 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア						
片付け	20 環境を汚染させないよう使用物品を速やかに後片付けする	ア						
記録	21 実施記録を記載する	ア						
アの個数 計		21						

※ 具体的な内容を記述してください

手引きの留意事項・考えられる主なリスク等に記載されている細目レベルで記述